

基 調 講 演

テーマ：山陰地方における地震ハザード抽出の問題点と
その解決に向けて

講 師：島根大学 総合理工学部 准教授 向吉 秀樹



略 歴

2006年4月 株式会社マリンワークジャパン 技術職員
2013年7月 早稲田大学教育・総合科学学術院 地球科学専修 技術職員
2014年7月 島根大学総合理工学部 助教
2021年4月 島根大学総合理工学部 准教授

研究活動・著書他

日本国内のひずみ集中帯，特に山陰ひずみ集中帯における断層分布およびその発達過程に関する研究を行っている．また，南海地震・東南海地震に代表されるプレート境界型地震の震源域における断層挙動に関する物質科学的研究を行っている．

Uchida, H., Mukoyoshi, H., Tonai, S., Yamaguchi, M., Kobayashi, K., Reactivation of minor faults in a blind active fault area: A case study of the aftershock area of the 2000 Western Tottori Earthquake, Japan. *Journal of Asian Earth Sciences*: X, 5, 13p, <https://doi.org/10.1016/j.jaesx.2021.100053>, 2021.

Pickering, K.T., Pouderoux, H., McNeill, L. C., Backman, J., Chemale, F., Kutterolf, S., Milliken, K. L., Mukoyoshi, H., Henstock, T. J., Stevens, D. E., Parnell, C., Dugan, B., Sedimentology, stratigraphy and architecture of the Nicobar Fan (Bengal–Nicobar Fan System), Indian Ocean: Results from International Ocean Discovery Program Expedition 362. *Sedimentology*, 67, 2248–2281, 2020.

Mukoyoshi, H., Kaneki, S., Hirono, T., Slip parameters on major thrusts at a convergent plate boundary: regional heterogeneity of potential slip distance at the shallow portion of the subducting plate. *Earth Planet and Space*, 70:36, 10p, doi.org/10.1186/s40623-018-0810-z, 2018.

向吉秀樹，林広樹，内田嗣人，吉崎那都，武田哲也，後藤和彦，関根秀太郎，笠原敬司，1997年鹿児島県北西部地震余震域内の基盤から土壌までを切る断層の露頭. *地質学雑誌*, 124, 361-366, 2018.

講演概要等

山陰地方は，確認されている活断層が少ないものの，地震活動が中国地方の他の地域より多いことが知られている．内陸型地震の多くは活断層の活動によって生じるため，地震活動が多いにもかかわらず，確認されている活断層が少ないということは，まだ確認されていない活断層が複数存在するということを示している．本講演では，山陰地方で確認されている活断層が少ない理由について紹介する．また，地震ハザードとしての活断層を抽出するために現在行っている，野外調査を主体とした研究の内容について紹介する．